（書式２）

＜事務局使用欄＞**受付番号：**　　－

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部・研究科１年　小川伸

①学習成果

私は在学中からしばしば海外への旅行を行っていた。今回の留学以上に長い期間を海外で過ごすことも慣れたもので国外に長期的にいるということ点に関しては、あまり問題等は感じなかった。むしろいつもより短めである分、もう日本に帰るのか、と時の流れの速さに驚愕せざるを得ない。

留学という意味では初の經驗であり、長期的に海外で一か所にとどまったのもこれが初めてである。以前より、海外留学を望む気持ちはあった。その思いは、修士になる前から漠然と頭の中に沈殿しており、語学学習の意欲とともに頭をもたげ始めたのであるが、明確な計画や確固たる目標を伴っていたわけではなく、ただ日本の土地を離れて勉学に励むことも悪くはない、といった程度の微温的態度に根差していた。

しかしながら、今回この浙江大学のプログラムに参加したことで、頭中で曖昧模糊とした留学像は、濃霧が晴れるかのごとく輪郭を現し、そう遠くないうちに刺激的な生活をこの國で送ることになるであろうことを、私に確信させた。留学生寮での生活、本科生の生活、授業形態、他国での常識等など、まだまだ見足りない点は多く、短期ではわからないことが更に残っている。これらを理解、受容するためにも長期的な視野は当然欠くべからざる要素であり、少なくとも博士に入った段階で、長期留学を経験したい。

国際理解とは相手がいて初めて成り立つ。これは、京都大学の研究室で日常的に留学生と交流している分あまり考えなかった点であった。こちらから乗り込んでいくのか、相手からこちらに来てもらうのかでは、その交流の意味は全く異なっている。前者であれば、こちらから積極的な態度は取らずとも、何かしらの関係は成立するが、後者となるとその反対であり、意識的に行わなければ実のある經驗が得難い。文化的背景の違いは大前提として、相手国の知識があればそれで理解になるかといわれれば、そう安直な話でもない。結局は自己の文化を元に他国の文化を翻訳して、「良し悪し」を認識しているに過ぎない。大半の人間は他国に関して左程の定見をもつわけではなく、垂れ流しの情報と空気を読んで動いているのであり、そうした雰囲気に流されず、自己の感覚と交流の經驗を信じて多様な他者を如何に受け入れていくかが、国際理解の要点になるのだろう。

また、私の専門は中国史である以上、中国のことを知った気になっていた点が多々あり、それらが正しい意味で是正される機会を得たことに感謝が絶えない。元々関心が薄いこともあるが、現代の情報などは特に、他国の人間が自分以上に日本に詳しいことも驚きであり、自分の興味の偏狭さに身をつまされる思いがした。

②海外での経験

多いとは言えないが、何名かの友人もできた。帰国後も交流を持ちたい。特に徐氏とは非常に深い話をする間柄となり、日本発祥の文化を通した人類共通の関心事項を確認する機会を得た。徐氏の知識は日本の各専門家に比肩するものであり、知識の深さとともに純粋な愛を感じることができた。こうした文化の発信は日本のソフトパワーとなり、ひいては日本の文化的平和性を国際社会へ主張する一助となるであろう。

極めて個人的な感想でもあるが、上述のとおり、海外にいながら一か所に長期滞在するのは初めての経験であり、スーツケースの利用も初めてであるので、所々違和感を覚えないでもなかったが、総じて快適な留学生活であった。なによりも宿の手配を心配しなくてよいというのが素晴らしい。普段の海外であれば、翌日のチェックアウトの時間に恐恐としつつ、次の移動経路と手段の確保に汲汲とする生活であるが、如何せん大学で授業があるためそう何度も移動を繰り返すわけにもいかず､若干の物足りなさを感じつつも浙江大学での日々を満喫した。

③プログラム内容

概ね満足である。いくつか不慮の問題が発生したため、その点に関しては改善の必要がある。これに関しては、別に報告を設ける。

中国人学生との交流は極めて重要なことではあるが、別の一方で生の中国－容赦のなさ、懐の広さ－を知るためにも、自由行動枠を増やすべきである。また、中国側にも迷惑をかけるため、大規模な交流を基本として、あとは個人の交流に委ねるのもひとつの手段である。

全体としては、常に九人で行動することに無理を感じた。大人数での食事等は何度もいれるべきではない。今後の留学計画で人数を多くするのであれば、ある程度分割を前提とした班行動をとるべきある。かつ、予定が詰め込みすぎで、何をするにも時間的制約が存在した。日中文化も講義も、2 日にわけるよりは、一日集中して行い密度を高めるべきである。そうすることで、各人の自由裁量も高まると考えられる。短期留学という性質、ビザの関係などからの問題も想像されるが、授業の予習といった学生の生活面で負担がかかっている。煩瑣な仕事量、作業量の多さは、上記の短期留学における目標の遂行を妨げるものであり、有意義な体験を得る上では不適切と言えるであろう。

④進路への影響

日中友好を前面に押し出して彼らとの関係を繋いでいきたい思うわけではないが、悪意の奔流に流されないだけの定見を身につけたと思う。仕事をするにしても、大学生活を通じて身につけた中国に関する知識を利用できる場をいかに確保するかということが今後の目標になるであろうし、研究職につけば尚更切っても切れない関係を中国と結ばなければならない。